

令和元年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

- 第1回 令和2年6月23日(火) 午後3時30分～午後5時30分
- 第2回 令和2年7月 1日(水) 午後1時30分～午後3時30分
- 第3回 令和2年7月30日(木) 午後1時30分～午後3時30分

上田市教育委員会

目 次

I	趣旨		1
II	上田市教育行政評価懇話会		1
III	評価の方法		2
IV	評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1	上田市教育支援プランの推進		
①	学力の定着・向上	学校教育課	3
②	いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への支援	学校教育課	4
③	教員のICT活用指導力の向上	学校教育課	5
④	放課後児童対策の充実	学校教育課	6
⑤	教員の働き方改革の推進	学校教育課	7
⑥	食育の推進・充実に向けた環境の整備	教育総務課	8
⑦	小中学校のあり方の検討	教育総務課	9
2	安全・安心な教育環境の整備		
①	市内小中学校への空調機器設置	教育施設整備室	10
②	第五中学校改築事業(耐力度調査業務)	教育施設整備室	11
③	上田市学校施設長寿命化計画[個別施設計画](素案)の作成	教育施設整備室	12
④	学校施設の適正な営繕の実施	教育施設整備室	13
3	文化遺産の保護・継承・活用		
①	「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取り組み	生涯学習・文化財課	14
②	史跡等整備の推進と文化財の活用	生涯学習・文化財課	15
③	史跡上田城跡整備事業の推進	生涯学習・文化財課	16
④	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	生涯学習・文化財課 博物館	17
4	生涯学習の推進と学習環境の整備		
①	地域とともにある学校づくりの充実	生涯学習・文化財課	18
②	人権同和教育・啓発の推進	生涯学習・文化財課	19
③	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	生涯学習・文化財課	20
④	公民館事業の充実	中央公民館 生涯学習・文化財課	21
⑤	図書館サービスの充実	上田図書館 生涯学習・文化財課	22
5	生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
①	(仮)第2次上田市スポーツ振興計画の検討	スポーツ推進課	23
②	スポーツ施設整備の推進	スポーツ推進課	24
③	生涯スポーツ振興、競技力向上、人材育成とスポーツを支える地域づくり	スポーツ推進課	25

I 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

II 上田市教育行政評価懇話会

令和元年度重点事業の評価の結果等について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、6月23日、7月1日、7月30日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
酒井 弘幸	元学校教育課指導主事(常磐城ふれあい教室)、 民生児童委員、元城下小学校長	座長
安達 永眞	小県上田教育会幹事、元南小学校長	副座長
小宮山 千佐	上田市博物館協議会委員、民生児童委員	
町田 龍一郎	筑波大学生命環境系特命教授、 上田市文化財保護審議会委員	
矢島 孝浩	上田市スポーツ推進委員副会長、 上小スポーツ推進委員協議会理事	
山浦 美幸	上田市行財政改革推進委員会委員、 上田中央地域協議会委員、元上田市社会教育委員	
山崎 順子	西部公民館運営審議会委員、元上田市教育委員	

Ⅲ 評価の方法

令和元年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

Ⅳ 評価の結果及び懇話会の提言内容等

令和元年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

令和元年度 事業評価シート

1-①

事業名	学力の定着・向上	担当課	学校教育課
-----	----------	-----	-------

当初目標	(1)すべての児童生徒にとって「わかる」授業につなげる授業改善を行います。 (2)学力の定着・向上に向け、家庭学習の充実を図り、生活・学習ノート「紡ぐ」の有効活用と次年度への準備を行います。	
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)
	(1)「わかる授業」につなげる授業改善	
	・長野大学社会福祉学部と塩田地区4小中学校が取り組み、成果を発信	0
	・「授業を語る会」(年3回開催)	0
	(2)生活・学習ノート「紡ぐ」の有効活用と次年度への準備	
	・小学校12校、中学校6校を抽出し年2回のアンケート調査実施	0
	・市校長会、学力向上委員会にて活用事例を発表	0
・学力向上委員会小委員会による検証及びノート仕様検討(年3回開催)	0	
・令和2年度仕様のノートの印刷	2,475	
目標の達成状況	<p>(1)「授業がわかると回答する児童生徒の割合」小学生・算数：前年度比0.7%増、中学生・数学：同2.7%増(令和元年度全国学力・学習状況調査)</p> <p>・長野大学社会福祉学部と塩田地区4小中学校が年間を通じ、ユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた授業改善に取り組み、その成果を全小中学校に発信しました。</p> <p>・学力向上委員会では、これまで行っていた県外視察や講演会を見直し、「迫力ある学びの創造」に向け、課題等を自由に話し合う場を創出しました(年3回)。</p> <p>(2)「計画を立てて家庭学習を行う児童生徒の割合」小学生：前年度比7.8%増、中学生：同0.7%減(令和元年度全国学力・学習状況調査)</p> <p>・アンケート調査では、「家庭学習時間増」「学校で家庭学習の計画を立てる」児童生徒が増えるなど変化が見られました。</p>	

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>第2期上田市教育支援プランに掲げる施策の推進、特に学力の定着・向上に向けた取組を推進していきます。</p> <p>(1)ユニバーサルデザイン化の視点を活かした授業改善を広めるほか、教員の指導力向上を支援する必要があります。</p> <p>(2)学習習慣を身に付け家庭学習の充実を図るため、本事業の有効活用を広めていく必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①「授業を語る会」により、教員同士で教育現場での課題を話し合い、主体的な授業改善につながっていることを評価します。</p> <p>②授業改善を引き続き進めるとともに、今後、児童生徒個々の学力に応じた学習支援の体制が少しずつ整っていくことを期待します。</p> <p>③「紡ぐ」の取組が始まって3年が経過し、児童生徒や先生にも定着してきていると考えます。今後の活用について、生徒、先生の意見を踏まえ検証がなされ、さらなる家庭学習の充実を図られることを望みます。</p>
	意見に対する考え方	<p>①児童生徒の学ぶ楽しさと意欲を高める「迫力ある学びの創造」に向け、教員が実態に合った授業づくりができるよう、今後も教員同士が語り合う場を設けるなどして支援していきます。</p> <p>②③児童生徒が授業につながる家庭学習が行えるよう「紡ぐ」を活用していきます。また、学力向上委員会や校長会を通じ、児童生徒、教員の意見の把握に努め、活用方法や事業の継続について検証していきます。</p>
今後の方針等	<p>(1)すべての児童生徒が、わかる、できると実感できる授業を展開するため、ユニバーサルデザイン化の視点を活かした授業改善を進めるとともに、教員自身も子どもたちの確かな学びや成長を実感できる授業を追求していきます。</p> <p>(2)ノートの活用状況、使用に関する要望等を学校から聴取し、更なる有効活用が図られるよう、全小中学校に対する有効活用例の発信をするとともに、「紡ぐ」の継続についても検討していきます。</p>	

令和元年度 事業評価シート

1-②

事業名	いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への支援	担当課	学校教育課
------------	-------------------------	------------	-------

当初目標	<p>(1)長野県の未成年の自殺死亡率が全国と比較して高水準にあることから、学校の場においても「SOSの出し方に関する教育」を推進します。</p> <p>(2)いじめ、不登校、貧困など複雑化、困難化する教育課題に対応するため、スクールソーシャルワーカーによる支援を強化します。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1)「SOSの出し方に関する教育」の推進		
	・自殺対策連携会議への参画		0
	・いじめ問題対策連絡協議会の開催		31
	(2)スクールソーシャルワーカーの派遣		
	・市内小中学校への訪問、支援		0
目標の達成状況	<p>(1)外部講師による授業実施1校 (予定していた2校は、新型コロナウイルスに伴う臨時休業により中止)</p> <p>(2)重点校を2校定め、校内支援会議に参加し支援に取り組んでいる他、市関係課で行う発達支援会議等で情報共有や連携を図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援実績 (のべ42校訪問、実人数65人を支援) ・児童生徒や保護者の情緒の安定や、学校への登校につながる成果が見られました。 		

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>(1)SOSの出し方に関する教育については、担任教諭、保健体育教諭、養護教諭等が日常の教科教育の場面でも繰り返し行うことが必要です。また、全ての学校で取り組む必要があります。</p> <p>(2)悩みを抱える児童生徒を取り巻く環境も複雑化していることから、状況に応じ関係機関と連携し、寄り添った支援をしていく必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①「SOSの出し方に関する教育」は子どもたちのセーフティネットとなる重要な取組だと考えます。学校での集団生活において人間関係力を養うことを大切にしながら、この取組が推進されることを望みます。</p> <p>②不登校児童生徒への支援は、早期の対応が重要だと考えます。スクールソーシャルワーカーを学校へ派遣し、多くの支援につながっていることを評価します。スクールソーシャルワーカーの利用促進に向けた学校、保護者への周知においては、スクールソーシャルワーカーの具体的な役割や支援内容を盛り込むことで取組への理解が深まると考えます。</p> <p>③子どもたちにはそれぞれの成長のペースがあり、長いスパンで見て、子どもたちが社会に出たときに生きていく力を教育の中で身に着けることが大切だと考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①③学校教育活動を通して、児童生徒が主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として他者とともに生きる力をつけられるよう支援します。また、命や暮らしの危機に直面した時に「誰に」「どのように」助けを求めればよいかを学ぶための「SOSの出し方に関する教育」も併せて推進していきます。</p> <p>②スクールソーシャルワーカーについて、家庭や学校への周知を図り、複雑化する児童生徒を取り巻く課題の早期解決につながるよう支援していきます。</p>	
今後の方針等	<p>(1)計画的に事業を進め、授業時間の確保、継続的な学びを促し、相談しやすい環境を整えていきます。</p> <p>(2)スクールソーシャルワーカーについて、学校及び家庭への周知に努めていきます。また、いじめや不登校の原因はさまざま一人ひとり違うことから、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの派遣、心の教育相談員の各校への配置、教育相談所、ふれあい教室の連携等により、状況に応じたきめ細かな支援、社会的自立に向けた支援をしていきます。</p>		

令和元年度 事業評価シート

1-③

事業名	教員のICT活用指導力の向上	担当課	学校教育課
当初目標	教員のICT活用指導力を養成し、よりわかりやすい授業の実現のため (1) 小・中学校の各1校に無線Wifi環境の整備と教員に1人1台タブレットPCを 配備し、ICTを活用した授業を行います。 (2) タブレットPCを使用した授業の進め方の研究と、管理運用等に関する調査を 行います。 (3) 児童生徒が新学習指導要領の目指す情報活用能力を身につけることができ ような授業を研究します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	・本原小学校タブレットPC12台、第六中学校 タブレットPC23台	1,016	
	・デジタル教科書（小：国語、社会 中：国語、地理、公民 歴史、理科、英語）を利用した授業	339	
	・ICT支援員による出前授業や授業支援	5,896	
	・情報教育主任会による授業改善の情報を共有	0	
	・夏季研修会時の外部講師の講演	70	
目標の達成状況	・機器の計画的な整備に努めましたが、機器の高騰もあり、教員1人1台のタブ レットPC配備には至りませんでした。 ・機器の導入が10月になり、教員に対する機器の操作研修期間を十分に確保できな かったことから、効果的な授業の研究や管理運営等に関する調査を次年度以降も引 続き実施します。 ・活用方法を研究する中で、児童生徒にも機器を整備したほうがより効果的な授業 が展開できるのではないかと意見から、次年度は菅平小中学校に児童生徒用機器 を整備し効果的な授業の研究を行います。		
総合評価		B	
今後の課題等	・国のGIGAスクール構想に基づき、児童生徒に1人1台の端末機器整備の方針がだされたことか ら、教育委員会として校内LAN及び機器の整備が早急に求められています。 ・また、教員には更なる情報機器の活用が求められますが、学校でのICT活用についての支援体制 ができていません。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①ICT教育は時代の大きな流れだと考えます。児童生徒への1人1台の端末機器整備については、機 器使用による視力低下など健康面への影響や、機器更新等に係る財政負担などさまざまな課題も見 据えながら、着実に整備されることを望みます。 ②児童へ1人1台の端末機器が整備されることで、機器等を適切に用いた情報の収集、整理、発信 など教科横断的な情報活用能力が養われることを期待します。	
	意見に対する考え方	①国のGIGAスクール構想に基づき、校内の通信環境整備とともに児童生徒への1人1台の端末を遅 くとも令和3年度内には完了する予定です。情報モラル教育を並行して行うことで、適切な情報機 器の使用を指導していきます。また、機器の更新など中長期の整備計画を立て、財政当局と協議し 国への支援等もお願いしていきたいと考えています。 ②教員の授業での情報機器活用方法については、これからの大きな課題で、研修会や出前授業など を行い教員のサポートに努めていきます。また、ICT支援員の増員等、授業を支援していく人材を確 保し、児童生徒の情報活用能力の育成に努めていきます。	
今後の方針等	今後補正予算を要求し校内LAN及び、児童生徒用の端末の整備を進めるとともに、教員への支援体 制として情報教育主任会（各校から教員1名が出席）において、ICT機器を使用した授業の事例を紹 介するなどソフト面の体制づくりに努めていきます。		

令和元年度 事業評価シート

1-④

事業名	放課後児童対策の充実	担当課	学校教育課
-----	------------	-----	-------

当初目標	放課後や学校休業日における留守家庭児童の健やかな成長と、保護者の就労支援に向け、次の施設を整備し運営します。 (1)学童保育所太郎の家新築 (2)適正な利用児童数を維持するための施設整備	
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)
	学童保育所太郎の家新築	63,525
	エアコン整備	12,332
	施設整備等による定員増	2,014
目標の達成状況	<p>(1)学童保育所太郎の家新築 令和2年2月28日竣工 旧施設の使用期限終了前に完成し、児童の受け入れを継続しています。</p> <p>(2)エアコン整備 21館 近年の猛暑から児童の命を守るため、国県の補助を活用して整備しました。</p> <p>(3)施設整備等による定員増 ・活動スペースの拡充 5館 106人増 ・放課後児童支援員の確保 3館 135人増 安心安全な保育に向け、利用児童数の増加している施設を中心に定員を増やしました。</p>	

総合評価	B
------	---

今後の課題等	利用児童数に適切に対応できる施設整備（場所・規模）を検討する必要があります。
--------	--

上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	保護者の就労等により、放課後児童クラブを利用する児童が増えている中、施設の新築や既存施設の活動スペースの拡充、支援員の確保により児童の受け入れ態勢を整え、社会のニーズに応えた環境整備ができていることを評価します。
	意見に対する考え方	留守家庭対策を担う放課後児童クラブの環境整備は、児童の安全確保、受け入れ体制の安定化、そして子育て支援を推進する上で必要性が高いと捉えており、ハード、ソフト両面から、今後も継続してその充実に向け取り組んでいきます。

今後の方針等	小学校等関係機関と連携し、余裕教室を含め、施設の設置場所について検討します。
--------	--

令和元年度 事業評価シート

1-⑤

事業名	教員の働き方改革の推進	担当課	学校教育課
当初目標	教員の長時間勤務を改善するため、教員が担うべき業務を明確にし各学校における教員の平均時間外勤務時間が月45時間以下となることを目指します。教員の勤務時間の把握を行うとともに部活動指導員の活用など各種の取組を進め、小中学校で質の高い授業の実現を目指します。 (H30年12月時点、45時間未満：20校、45時間超：16校)		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	部活動指導員の任用（4中学校で5人）	2,688	
	部活動の方針の徹底	0	
	月ごとの時間外勤務時間を調査し、勤務時間の適正化を目指す	0	
	教育委員会主催の研修等の見直し	0	
教育委員会独自の調査の見直し	0		
目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員を昨年の3名から5名に増員でき、また部活動の方針の徹底により中学校教員の負担減につながりました。 ・各校の平均時間外勤務時間 R元年12月時点、45時間未満：13校、45時間超：23校 (H30年12月時点、45時間未満：20校、45時間超：16校) 前年度と比較して、平均時間外勤務時間が月45時間以下の学校が減となり目標が達成できませんでした。このことから総合評価はCとしました。 ・一人当たりの平均時間外勤務時間 R元年12月時点、小学校：46時間17分、中学校：47時間23分 (H30年12月時点、小学校：46時間0分、中学校：50時間34分) 一人当たりの平均時間は、小学校はわずかに増加しているが、中学校は減少しています。 		
総合評価		C	
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では令和2年度から新学習指導要領による授業が始まり、英語の教科化、プログラミング教育など授業の準備にかかる時間が増加すると思われます。 ・中学校は部活動の方針の徹底や、部活動指導員の増員などがある程度効果を示していると思われます。 		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①市教育委員会主催の学校を対象とした調査等の削減を進めていることを評価します。 ②部活動指導員を任用することで、部活動を楽しみにしている生徒の活動を支えるだけでなく、教員の負担減につながっていることを評価します。指導員の増員により、さらなる時間外勤務の削減につながることを期待します。 ③時間外勤務削減に向け、さまざまな取組を実施しているが、教員の長時間勤務は未だ厳しい状況にあると考えます。今後、さらなる取組の充実により、教員の授業準備にかかる時間や児童生徒に接する時間が今以上に確保されることを望みます。	
	意見に対する考え方	①今後も市教育委員会からの調査の精選に努めるとともに、会議の簡素化やスクールサポートスタッフの活用等を実施していきます。 ②部活動指導員については今年度7中学校で8名を任用しておりますが、来年度はさらに人員の増加を図っていきたいと考えています。また市の部活動の方針に則った活動を行うことで生徒にもメリハリのある生活を指導していきます。 ③今年度は中学校全校、小学校1校に校務支援システムを導入しましたが、来年度は小学校全校に導入を広げる予定です。事務の効率化を図り、また勤務時間管理システムにより教員自身にも勤務時間の適正化について考えていただき、意見を頂戴したいと考えています。	
今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の客観的な把握をし、業務の平準化や教員間の協働化の推進 ・総合型校務支援システム（県推進の共同調達）の導入による業務の効率化 ・部活動方針の徹底と、部活動指導員の任用による教員の負担軽減 		

令和元年度 事業評価シート

1-⑥

事業名	食育の推進・充実に向けた環境の整備	担当課	教育総務課
-----	-------------------	-----	-------

当初目標	将来にわたって安全安心な学校給食を安定的に提供するために、老朽化した調理施設の更新を行う必要があります。この点を踏まえ「今後の学校給食運営方針」の一部を変更したことから、地域・学校などへの説明会を開催し、説明・周知を行います。また、第二学校給食センターの改築事業を着実に進めるために、建設用地の選定及び整備計画の作成を行います。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「今後の学校給食運営方針」市民説明会・保護者説明会の開催（計4回）	0	
	広報紙、ホームページ等への記事掲載	0	
	改築する第二学校給食センター建設候補地の地元説明会	0	
	改築する第二学校給食センター建設予定地の不動産鑑定業務	495	
	「上田市第二学校給食センター改築基本計画」の策定	0	
目標の達成状況	<p>(1) 5月から6月にかけて「今後の学校給食運営方針」（平成31年2月改訂）の市民説明会（2会場）及び上田地域の自校方式の小学校への保護者説明会（2校）を開催し、広報紙、ホームページ等による周知も行いました。</p> <p>(2) 改築する第二学校給食センターの建設候補地として、同センターに隣接する農地を予定し、7月に地元自治会へ事業実施に係る説明会を開催しました。また、農振農用地区域に指定されている当該用地の農振除外申請を行いました。</p> <p>(3) 第二学校給食センターの建設予定地に係る用地取得を進めていくための不動産鑑定評価を実施し、用地測量を進めました。</p> <p>(4) 第二学校給食センター改築に関する庁内検討会議を設置し、施設整備に関する大きな方向性について確認し、施設の設計を進めるうえでの基本的な考え方についてまとめた施設整備計画を作成しました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>施設の老朽化が進み、第二学校給食センターでは、ボイラー設備、厨房機器の故障が多発しており、早期の改築が必要です。第一学校給食センターの改築は第二学校給食センターの移転改築後に着手する計画であるため、より長期的な視点での対策が必要になります。</p> <p>食物アレルギー対応については、安全な対応を実施するために、市としての食物アレルギーに関する方針を策定する必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>食育の教材となる安全安心な学校給食を安定的に提供するため、老朽化した第二学校給食センターの改築に向け、市民への説明会や用地を取得するための各手続き、また施設設計の基本的な考えとなる施設整備計画の作成など、必要な事業を着実に進めていることを評価します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>安全安心な学校給食を安定的に提供するために第二学校給食センターの改築は喫緊の課題です。今年度から基本設計に着手し、その後、順次実施設計、本体工事を進め、令和5年2学期の施設稼働を目指しています。策定した「上田市第二学校給食センター改築基本計画」に基づき、庁内関係課と連携し、用地取得、設計業務等を着実に進め、子どもたちの食育に資する学校給食を安定的に提供できる体制を整備していきます。</p>	
今後の方針等	<p>安全安心な学校給食を提供できるように、老朽施設・設備の点検及び修繕を行います。第二学校給食センターの改築事業については、用地取得、設計業者選定等を計画的に進めます。食物アレルギー対応については、医師、学校関係者などによる検討組織を設け、市内すべての給食施設及び小中学校において安全な取組を行うため、対応方針の策定を進めます。また、安全安心な学校給食を提供するため、給食に使用する食材についても、より安全良質な無添加・低添加の食品や国産品を使用するとともに地場産物の使用を積極的に進めていきます。</p>		

令和元年度 事業評価シート

1-⑦

事業名	小中学校のあり方の検討	担当課	教育総務課
-----	-------------	-----	-------

当初目標	<p>少子化に伴う学校の小規模化への対応、学校施設の老朽化による改築需要の増大など、教育を取り巻く諸課題に対応する必要があります。このため、「上田市小中学校のあり方研究懇話会」からの提言書の趣旨を踏まえ、平成30年度に設置した「上田市小中学校のあり方検討委員会」において、ソフト・ハード両面から「小中学校のあり方」を検討し、上田市における望ましい教育の方向性としての、小中学校のあり方に関する基本方針を策定します。</p>	
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)
	「上田市小中学校のあり方検討委員会」の開催（6回）	179
目標の達成状況	<p>(1) 上田市小中学校のあり方検討委員会を6回開催しました。 (R1.5/24、7/23、10/8、11/21、R2.1/31、3/12)</p> <p>(2) 検討委員会においては、「上田市小中学校のあり方研究懇話会」からいただいた提言書の趣旨を踏まえ、①「目指す子ども像」②「上田市としての特色ある教育」③幼保小中高大などの「縦の連携」による一貫した育ちの支援 ④学校・家庭・地域など「横の連携」による学校の支援⑤「学びの環境」としての学校の適正規模・適正配置の推進の5つの主要な柱について、意見交換等を行いながら検討を進めました。基本方針の策定までには至りませんでした。このことから総合評価はCとしました。</p> <p>(3) 現在、基本方針の素案の作成に向けた検討を進めています。</p>	

総合評価	C
------	---

今後の課題等	<p>令和2年度における小中学校のあり方に関する基本方針の策定に向け、早期に素案を作成する必要があります。</p> <p>また、「今後の小中学校のあり方」という重要なテーマを検討する事業であり、子育て世代を中心に市民の関心も高いことから、基本方針の策定に当たっては、幅広く市民意見の把握に努める必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①基本方針の策定の中で、上田市としてどのような子どもを育てたいのかという「目指す子ども像」を目的に定め、「学びの環境」など方針の柱となる部分を体系的に検討していることを評価します。</p> <p>②学校の適正規模など難しいテーマではあるが、検討方法等を整理し、当事者となる子育て世代を含め広く意見の把握に努めながら、早期に基本方針が策定されることを望みます。</p>
	意見に対する考え方	<p>①グローバル化の進展や情報化社会の到来などを背景に、予測困難な新たな時代を生き抜く子どもたちについて、どのように育ててほしいのかという願いを踏まえ、教育目標として「目指す子ども像」について議論するとともに、教育内容として「特色ある教育」、教育体制として「縦の連携・横の連携」、教育の環境として「学びの環境」について、総合的に検討を進めています。</p> <p>②小中学校のあり方という重要なテーマを扱うことから、検討委員会において時間をかけて議論を重ね、慎重に取り組んでいます。幅広く市民の意見や考え方を確認しながら進めていくことは大切であると考えますので、市民への情報発信に留意しながら、基本方針の策定を進めていきます。</p>
今後の方針等	<p>これまでの検討委員会でもいただいた意見、提言等を整理・集約し、素案としてまとめ、パブリックコメント（意見公募）を行い、市民意見の反映に努めるとともに、市民への情報発信にも留意しながら、令和2年度中に小中学校のあり方に関する基本方針の策定を目指し作業を進めます。</p>	

令和元年度 事業評価シート

2-①

事業名	市内小中学校への空調機器設置	担当課	教育施設整備室
-----	----------------	-----	---------

当初目標	児童生徒の熱中症対策として、空調機器が未整備の市内小中学校普通教室(特別支援教室を含む)に空調機器を設置します。(整備済の小中学校及び菅平小中学校を除く)		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	小学校空調設備整備事業(24校)		1,252,040
	中学校空調設備整備事業(7校)		407,899
目標の達成状況	全国的に空調設備工事が行われる中、県内に先駆けて工事発注を行ったことにより、6月末現在で設置率81.3%を達成し、2学期には、すべての学校で空調機器を稼働させることができました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	児童生徒の健康への影響の観点から、空調機器の使用に当たっては、使用者(学校)において適切な温度管理を行う必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	計画的に工事の発注を行い、市内全ての小中学校で空調機器の設置、稼働を果たしたことを評価します。現時点では空調機器の設置が不要な菅平小中学校も含め、今後も引き続き市内の全小中学校において適切な学習環境が確保されることを望みます。	
	意見に対する考え方	子どもたちの熱中症予防の観点から、今後においても、学校環境衛生基準等で定められる学習環境(室温17℃～28℃)を安定的に確保するため、各種事業を進めていきます。	
今後の方針等	良好な学習環境の安定的確保のため、各学校に「取扱指針」を示し適正な温度管理と機器の使用法を周知するとともに、適切な維持管理と光熱費の増加抑制に努めます。		

令和元年度 事業評価シート

2-②

事業名	第五中学校改築事業（耐力度調査業務）	担当課	教育施設整備室
-----	--------------------	-----	---------

当初目標	第五中学校の改築に当たり、国庫補助金等の交付の前提となる、建物の構造耐力を調査する「耐力度調査」を年度内に実施します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	第五中学校改築事業 耐力度調査業務委託		10,890
	第五中学校改築事業 現地測量業務委託		2,684
目標の達成状況	<p>耐力度調査業務については、予定どおり年度内に完了することができました。</p> <p>また、当初計画にはありませんが、今後の設計において必要となる地形データを把握するための「現地測量業務」を今年度実施しました。このことから総合評価はAとしました。</p>		

総合評価	A
------	---

今後の課題等	学校施設の改築に当たり、教職員、保護者、地域の代表者からの意見を伺いながら、施設の配置、規模等を決定する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	現在の校舎、土地の状態を把握するための調査を済ませ、改築方針の決定に向け、事業が順調に進んでいることを評価します。今後、関係者の意見を聴取しながら、新しい校舎の配置や完成時期など適切で具体的な計画となっていくことを期待します。	
	意見に対する考え方	令和2年度に、教職員、PTA、地域の代表者の皆さんなどをメンバーとして、第五中学校改築を推進するための検討組織を立ち上げ、各方面からの意見集約に努めます。その後、いただいた意見を基に、施設の配置計画等を決定し、現実的かつ効率的な施工計画を立てていく予定です。	
今後の方針等	配置計画等を検討する際に、教職員、保護者、地域の代表者からの意見を伺う機会を設けます。		

令和元年度 事業評価シート

2-③

事業名	上田市学校施設長寿命化計画[個別施設計画](素案)の作成	担当課	教育施設整備室
-----	------------------------------	-----	---------

当初目標	昨年度までに作成した学校施設カルテを基に、学校施設の老朽化度を加え、将来に渡り持続的かつ計画的な施設改修等を行うための計画の素案を作成します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	長寿命化計画(素案)の作成		0
目標の達成状況	昨年度までに作成した学校施設カルテを基に、国が求める計画への記載内容に従い、「上田市学校施設長寿命化計画(素案)」を作成しました。		

総合評価	B		
今後の課題等	今年度作成した計画の素案を基に、施設毎の整備方針を決定し、広く市民の意見等も反映させた計画を完成させることが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	建設から40年を経過する学校施設もあり、近い将来多くの施設において改修、改築が求められると考えられます。将来的な課題に向け、限られた財源の中で持続的な施設整備を行うための計画の整備が進んでいることを評価します。	
	意見に対する考え方	昭和40年代・50年代に建設された多くの学校施設において、将来の改築需要等の増加が見込まれる中、引き続き学校施設の状態把握を行う中で、上田市公共施設総合管理計画に基づき、改修、改築コストの平準化、縮減を図りながら、持続的に施設の維持管理が行える計画となるよう鋭意取り組みます。	
今後の方針等	計画の策定に当たっては、内容の精査を行うとともに、パブリックコメント等を実施し、市民からの意見集約に取り組みます。		

令和元年度 事業評価シート

2-④

事業名	学校施設の適正な営繕の実施	担当課	教育施設整備室
-----	---------------	-----	---------

当初目標	各学校からの営繕要望に対し、営繕実施の可否について判断の上、経費圧縮に努めながら、迅速かつ適切な事業推進を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	小学校施設修繕		13,454
	小学校施設営繕工事		31,077
	中学校施設修繕		11,441
	中学校施設営繕工事		5,721
目標の達成状況	<p>災害による影響により入札が遅れた事案もありましたが、学校からの営繕要望に対し、必要性、コスト面からの検討を加え、必要な営繕については、すべての業務を適切かつ迅速に実施することができました。</p> <p>また、今年度から配置された技術職員により、発注内容の精査を行い、適正な競争の下、経費圧縮にも一定の成果が得られました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	学校施設の多くは老朽しているため、今後も引き続き適切な営繕に努めていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	専門知識を有する市の技術職員により、営繕の緊急性、必要性、コストを見定め、学校施設が適正に管理されていることを評価します。	
	意見に対する考え方	限られた予算の中、各学校から寄せられる営繕要望については、専門知識を有する技術職員により、必要性・緊急性等をその都度判断し、今後も引き続き適正な施設の維持管理に努めます。	
今後の方針等	営繕要望を把握後、速やかに施設の状態を確認した上で、計画的に営繕を行います。		

令和元年度 事業評価シート

3-①

事業名	「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取り組み	担当課	生涯学習・文化財課
-----	-----------------------------	-----	-----------

当初目標	住民説明会を公民館（9館）で開催し、「上田市歴史文化基本構想」の周知を図るとともに、構想策定を受けて新たに着手する「地域計画」の策定に向けて、地域住民や指定文化財所有者の意見集約を図ります。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「上田市歴史文化基本構想」冊子及び概要版の印刷	551	
	住民説明会の開催（市内8公民館で実施）※武石公民館は延期	0	
目標の達成状況	2月に住民説明会を公民館（丸子、真田中央、中央、西部、上野が丘、塩田、川西、城南）で開催しました。各会場で指定文化財の所有者の皆さんをはじめ、地域住民の皆さんの参加をいただき、「上田市歴史文化基本構想」の周知を図るとともに、地域計画策定に向けて意見聴取を図ることができました。なお、3月3日に開催予定だった武石公民館での説明会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を延期しました。		

総合評価		B
今後の課題等	延期とした武石地域での住民説明会は適切な時機に実施します。 上田市の文化財保護施策のマスタープランである「上田市歴史文化基本構想」に基づき、住民が地域の文化財の価値を正しく理解し、主体的に文化財の保存活用に取り組むことが可能となる「地域計画」の策定が必要です。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①住民説明会での市民の意見を十分に取り込み、「上田市文化財保存活用地域計画」策定に当たることを期待します。</p> <p>②「上田市文化財保存活用地域計画」策定に当たっては、専門的な視点から文化財の価値を掘り起こすとともに、地域で文化財を守っている人たちを支援していく内容を盛り込み、地域に根差した計画となることを期待します。</p> <p>③文化財の悉皆調査は、調査資料自体が財産となると考えます。小中学生をはじめ、市民に調査結果を広く知っていただき、市民の誇りが育まれることを期待します。</p>
	意見に対する考え方	<p>①指定文化財所有者をはじめとした市民の意見を検証し、具体的な取組につながる意見については、「地域計画」に反映させていきます。</p> <p>②文化財の魅力発信と保存活用に地域住民の積極的な関与を求め、官民が協働で文化財を守り伝えていくことができる計画となるよう取り組んでいきます。</p> <p>③悉皆調査の成果を博物館や美術館等と連携した取組の中で広く周知するとともに、小中学生に対する取組についても実施に向けて関係部署と検討していきます。</p>
今後の方針等	「基本構想」策定時に実施した、仏像や蚕都上田に関わる近代和風建築の悉皆調査の結果を広く市民に周知できる方策について検討します。また、発掘調査や古文書整理など、地域の方々と協働で行う取組により文化財の魅力発信を進め、その保存活用に官民協働で取り組もうとする機運を醸成します。	

令和元年度 事業評価シート

3-②

事業名	史跡等整備の推進と文化財の活用	担当課	生涯学習・文化財課
-----	-----------------	-----	-----------

当初目標	信濃国分寺跡、鳥羽山洞窟遺跡をはじめとした史跡等の保存と整備を進めます。また、「文化財de文化祭」や「日本遺産」認定等、文化財の積極的な活用を進め、その価値と魅力発信に努めます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1)信濃国分寺跡の公有化は所有者の意向変化により未実施	0	
	(2)文化財de文化祭は、妙見寺と別所神社で2回実施	500	
	日本遺産認定先進地の視察（福山市、尾道市ほか10箇所）	198	
	日本遺産認定申請書の調製及び提出	64	
目標の達成状況	<p>(1)信濃国分寺跡の公有化については、所有者の意向が変化したことにより未実施となったものです。</p> <p>(2)「文化財de文化祭」事業は市内の指定文化財を会場に2回実施しました。両会場とも大勢の皆さんが参加されるとともに、地域の文化団体との協働を図ることができました。また、日本遺産認定申請については、昨年度の反省と先進地視察の結果を踏まえ、よりコンパクトなエリアでのストーリー設定と地域活性化計画とし、令和2年5月の認定を目指しています。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>(1)信濃国分寺跡等の史跡公有化を進め、保存活用に積極的に取り組みます。</p> <p>(2)「文化財de文化祭」事業については、市民の皆さんとの協働が可能なイベントとして自立自走ができる組織づくりを目指します。また、日本遺産認定後の地域活性化施策に市民の皆さんが積極的に関与できるような仕組みづくりを目指します。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①「文化財de文化祭」事業において、これまで行政が培ってきた文化財活用のノウハウが地域へ還元され、地域住民が主体となり地域の文化財の活用が進んでいくことを期待します。</p> <p>②この度の「日本遺産」認定につながった、「文化財de文化祭」事業を含む令和元年度までの文化財保護・活用の取組を評価します。「日本遺産」認定を、今後の上田市の観光PRにつなげるさらなる取組に期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①「文化財de文化祭」事業は、市民の主体的な運営が可能な組織・人材作りが必要であり、行政が主体となっている現状を見直し、官民協働を可能とする将来の在り方を見据えた事業運営を心掛けていきます。</p> <p>②日本遺産認定により、文化財の観光活用に向けた取組をさらに進めるとともに、市民に向けた文化財の魅力発信を行うことで、文化財を長く伝えてきたこうした地域の誇りをより一層育み、文化財の保存活用への市民の積極的な関与を進めていきます。</p>	
今後の方針等	<p>(1)信濃国分寺跡等の史跡の公有化については、今後も所有者等の意向を最優先として進めます。</p> <p>(2)身近な文化財の価値や魅力について、協働での調査をはじめ、広報やSNS等を通じて周知に努めることで、住民が地域の「宝」「誇り」として文化財を保存活用していこうとする取組を支援します。</p> <p>(3)文化財活用について、元々行われている地元の活動を大切に、行政と一緒に取り組むことで持続可能な活動につながるよう努めます。</p>		

令和元年度 事業評価シート

3-③

事業名	史跡上田城跡整備事業の推進	担当課	生涯学習・文化財課
------------	---------------	------------	-----------

当初目標	櫓や武者溜りの復元整備の具体的な進捗を図るため、城郭等関連分野に精通した学識経験者を招集して「史跡上田城跡整備専門家会議」を開催し、事業推進のための専門的かつ具体的な指導・助言をいただきます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「史跡上田城跡整備専門家会議設置要領」の制定		0
	委員の選任と委嘱		0
目標の達成状況	当初計画により、設置要領の制定と委員の選任が完了し、各委員からも就任の内諾を得て、3月の「専門家会議」の開催に向けて準備を進めていましたが、「専門家会議」には全国から10名の委員が参加するため、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、開催を見送りました。このことから総合評価はCとしました。		

総合評価	C
-------------	---

今後の課題等	「専門家会議」を開催するとともに、令和3年度末を目途に「史跡上田城跡保存活用計画」の策定、「史跡上田城跡整備基本計画」の改訂を行い、櫓と武者だまりの復元的整備に向けた準備を進めます。また、文化庁や長野県教育委員会の指導を得ながら、史実に忠実な城跡整備に必要な「古写真」「古文書」等の資料収集に引き続き取り組みます。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①新型コロナウイルス感染症の影響により「専門家会議」を開催できず、目標が達成できなかった点はやむなしと考えます。 ②文化財の復元等における基準が文化庁において見直されたことも踏まえ、学識経験者の助言に基づき上田城跡の整備事業が前進することを期待します。	
	意見に対する考え方	①「専門家会議」は感染症の収束状況をみながら適切な時機に開催し、聴取した意見を上田城跡整備に向けた「保存活用計画」「整備基本計画」の策定に生かしていきます。 ②新たな「復元基準」に基づく櫓の「復元的整備」について、専門家会議からの意見聴取と調査指導を得て、復元が早急に実現できるよう努めていきます。	
今後の方針等	「専門家会議」は来年度可能な限り早期に開催し、事業推進のための専門的かつ具体的な指導をいただくこととします。二つの「計画」は城跡整備のために必須とされており、早急に櫓の復元的整備を実現するために策定を急ぎます。		

令和元年度 事業評価シート

3-④

事業名	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	担当課	生涯学習・文化財課 博物館
-----	----------------------------	-----	------------------

当初目標	郷土の歴史・文化や先人の業績等を市民の皆さんや子どもたちに知っていただき、郷土への理解と愛情を深める機会を創出するために、次の事業を実施します。 (1)郷土の歴史・文化や先人の業績をテーマとした展示・講座等の開催 (2)それらに係る史資料の収集・調査と研究、公開と情報発信	
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)
	(1)郷土の人物紹介パネル（50人）の製作	319
	(2)市立博物館…企画展3回、史跡めぐり4回、各種講座11回	650
	信濃国分寺資料館…企画展 3回、「親子de縄文体験塾」3回、「市民講座」3回、「奈良時代を学ぶ会」9回、「万葉講座」2回、「資料館講座」2回、公開講座1回	661
目標の達成状況	(1)先人館開館の準備として、郷土の人物紹介パネル（50人）を製作しました。 (2)郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績をテーマとした企画展及び講座等を開催しました。 ・市立博物館では、江戸時代の上田で起きた水害、上田ゆかりの武具類、上田のひな人形をテーマとした企画展を開催しました。また、古文書講座や公開講座、県内外の史跡めぐりなどを実施しました。 ・信濃国分寺資料館では、上田市内の小学校の郷土資料室に收藏されていた土器などの資料や信濃国分寺ができたころの上田の様子に注目した企画展を開催し、あわせて講座や教室などを実施しました。	

総合評価	B	
今後の課題等	市民が郷土に対する理解を深め、誇りや愛着を醸成するための機会を、展示をはじめとした様々な形で提供していく必要があります。また、観光客に対しても、分かりやすい展示、企画等を行うことで、上田の幕末維新や蚕都の歴史に理解を深め、再度上田を訪れる契機となるような取組が重要です。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①次世代を担う子どもたちが郷土への理解と愛着を深めてくれることが一層重要だと考えます。子どもたちが興味を持ち参加しやすくなる展覧会の構成や講座内容となるよう引き続き工夫していくことを期待します。 ②上田の歴史、文化を紹介する魅力的な展覧会や講座を企画していることを評価します。先人館も含め、郷土のことを深く知ることができる取組が充実していくことを期待します。
	意見に対する考え方	①市民の方々、特に次世代の「郷土への理解と愛着」を喚起するために、さまざまな形での歴史や文化を知る機会を創出し、着実に発信していきます。子どもたちが興味を持ち参加しやすくなるよう、展覧会の構成・内容をブラッシュアップし、キャプションの工夫、子供向けのギャラリートーク、参加体験型の講座など、子どもや親子が利用しやすくなるように工夫していきます。 ②先人館では、多くのパネルを通じ、多彩な先人たちの活動が、郷土への誇りにつながるよう積極的に紹介していきます。上田最大の観光拠点・上田城と柳町等をつなぐポイントとして、駐車場案内など、利用者目線で情報発信をしていきます。観光で訪れる方にも魅力ある展示となるよう各館で充実を図っていきます。
今後の方針等	(1)市立博物館・信濃国分寺資料館において、企画展、常設展の展示替え、市民向けの各種講座、親子で学べる体験型教室、学校へ出向いての子ども向け教室などの各種事業を継続的に実施します。 (2)地域への誇りと愛着からUターンで上田に戻ってくることや、観光で訪れる方々に上田地域に興味を持っていただき、再訪からIターン移住につなげることも視野に入れ、先人館も含め、各館で上田の魅力を発信していきます。	

令和元年度 事業評価シート

4-①

事業名	地域とともにある学校づくりの充実	担当課	生涯学習・文化財課
------------	------------------	------------	-----------

当初目標	(1)市ホームページの整備等で「活動の見える化」を推進／上田市の特色ある各校の取組の紹介コーナーを開設 (2)コーディネーター等のスキルアップのための研修会・先進地視察の実施。人材発掘・連携につながる情報交換会の実施／学校支援プロジェクト会議の企画で研修会・情報交換会等を開催 (3回)		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	ボランティアハンドブック (2,000部) を改正・増刷	75	
	リーフレット (16,500部) を印刷。市ホームページへ掲載	193	
	研修会 (計2回 県主催研修会：参加者4人、講演会：参加者115人)	117	
	情報交換会 (計1回 ボランティア交流会：参加者76人)	1	
	ボランティア活動保険に加入 (@350円：1,570人)	550	
目標の達成状況	(1)広報活動として、市ホームページの整備などを実施 ・ボランティアハンドブックを改正・増刷、配布するとともに、市ホームページに掲載しました。 ・交流会(情報交換会)のリレートークで発表いただいた学校・団体を中心に作成したリーフレットを配布するとともに、市ホームページに掲載しました。 (2)コーディネーター等のスキルアップ研修会と交流会等を実施 ・県主催の学校支援ボランティア研修会に参加しました (9/12：参加者4人・うち発表者1人) ・研修会を1回実施しました (11/11：参加者115人) ・交流会(情報交換会)を1回開催しました (1/24：参加者76人)		

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	学校の実情や地域の特徴を生かしながら継続した取組となるよう、持続可能な体制を整備していくことが必要です。 ①学校・地域ごとで取組状況に差があり、また、ボランティア等の固定化・高齢化も深刻な状況です。 ②地域ぐるみで学校教育を支える活動を更に充実させる必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①ハンドブック、リーフレットの作成や研修会の開催により、コーディネーターやボランティアなど関係者のスキルアップを図っていることを評価します。 ②今回の新型コロナウイルス感染症のような緊急事態においても、持続可能な体制を築いておくことが重要だと考えます。各学校の立場に立ち、ボランティアや行政が連携して取り組んでいくことを期待します。	
	意見に対する考え方	①今後も、広報活動を通じボランティアを広く募るとともに、顔が見える関係づくりも含め、スキルアップにつながる研修や情報交換を行っていきます。 ②学校におけるボランティア向けの標準的な感染症対策の注意事項を作成しています。作成した注意事項を学校の意向や現場の実情に合わせて利用していただくこととしています。今後も、学校や地域の方が安心して活動できるよう、その時々を踏まえたサポートを行い、統括コーディネーター、地域コーディネーター、学校支援コーディネーター間の情報交流に努めていきます。	
今後の方針等	(1)幅広い地域住民や団体等に参画を呼びかける手段として、市ホームページ等を活用し、活動の見える化をより一層進めます。 (2)地域学校協働活動として、統括コーディネーターがバックアップしていきます。研修会、交流会(情報交換会)を行う中で、コーディネーター、ボランティア等のスキルアップ、人材育成、人材開発、ネットワーク化を図り組織的活動を目指します。		

令和元年度 事業評価シート

4-②

事業名	人権同和教育・啓発の推進	担当課	生涯学習・文化財課
-----	--------------	-----	-----------

当初目標	<p>人権に関する問題が多様化している中、市民一人ひとりが正しい知識を持ち、理解することが重要となります。上田市人権施策基本方針に基づき、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進し、市民一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指します。学校や地域での学習のほか、上田市人権啓発推進委員会や上田市企業人権教育連絡会で研修会等（数値目標 参加者2,800人）を開催し、市民の人権意識の更なる向上を図ります。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	学校人権同和教育		4,487
	地域人権同和教育		4,766
	社会教育団体等人権同和教育の推進		295
	企業人権同和教育の推進		200
目標の達成状況	<p>上田市人権啓発推進委員会においては、10月に経済評論家の勝間和代氏を講師としてお迎えし、「人権を考える市民のつどい」を開催しました。「人権や平等についての意識が高まった。」等の意見をいただき、人権について考える良い機会となりました。2月には、丸子文化会館を会場に「人権フェスティバル」を開催し、人権作品の表彰や作品発表、東京大学名誉教授の上野千鶴子氏による講演会を開催しました。「上田市企業人権教育連絡会」においては、「新人研修」や「役員研修」等を行い、企業人権の啓発に努めました。</p> <p>その結果、これらの講演会、研修会の参加者は2,976人となり、目標の2,800人以上の参加を達成することができました。</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>子どもや高齢者、外国人の人権等、多様化・複雑化する人権課題に対応することが求められています。市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に移せるような、有意義な研修会等を企画・実施し、人権同和教育と啓発を一步一步着実に推進していく必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①人権同和教育は社会生活の基盤となる重要な取組だと考えます。人権同和教育を推進する講演会、研修会を、地域、小中学校において内容を工夫しながら積み重ねていることを評価します。</p> <p>②全国的に新型コロナウイルス感染症に関する差別や誹謗中傷が取り沙汰され、人権意識の乏しさが浮き彫りになりました。講演会や研修会だけでなく、本当に人が大事にされる人権感覚を市民が養う取組や情報発信の方法を研究し、実施していくことが大切だと考えます。</p>
上田市教育行政評価懇話会	意見に対する考え方	<p>①日常のあらゆる場面で人権尊重の精神が態度や行動として発揮できるよう学校や家庭、地域、企業等で、引き続き人権同和教育・啓発の推進に努めていきます。</p> <p>②人権に関する正しい理解と認識を深めるため、効果的な情報発信等について研究・検討するとともに従来行ってきた研修会も見直しを行い、日々の生活の中で具体的な態度や行動に移せるよう人権同和教育・啓発の推進に取り組んでいきます。</p>
今後の方針等	<p>講演会等の参加者アンケートでは、9割の方が人権について理解が深まったと回答しています。アンケート等により参加者が求めている人権課題や講師の把握に努め、一人でも多くの方に参加していただけるよう広報活動を行うとともに効果的な情報発信の方法について研究・検討をしてまいります。</p>	

令和元年度 事業評価シート

4-③

事業名	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	担当課	生涯学習・文化財課
-----	----------------------	-----	-----------

当初目標	<p>子どもの成長に重要な体験活動や集団遊びに触れる機会が減少傾向にあります。地域（自治会等）単位の体験活動を促進するため体験活動補助金を交付、またモデル的な自然体験活動に取り組み、機会の提供を図ります。</p> <p>青少年のインターネット接続機器端末の所持率が高まっており、地域・学校・家庭におけるインターネット・スマホの適正利用の啓発を進めていきます。</p>	
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)
	子ども会育成連絡協議会との連携による野外体験活動の促進	819
	インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレット作成・配布	131
目標の達成状況	<p>○子ども会育成連絡協議会との連携による自然体験活動を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのび川遊び体験教室（7/13 千曲川・浦野川） 小学生等75名 大学生16名 ・大好き上田!!ふるさとキャンプ(8/6～8 丸子地域) 小学生35名 中学生15名 大学生10名 ・親子でちょこっとアウトドア体験（11/23 市民の森） 低学年以下 16名 保護者13名 ・冬の自然体験教室（2/8 菅平） 低学年以下 11名 保護者11名 ・体験活動支援事業補助金の交付 66団体 <p>○インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレット作成・配布しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部数 16,500枚 ・特徴 上田市の小中学生の実態を掲載、春休み前の令和2年2月発行 	

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>外遊びをする子どもたちが減少傾向にあるといわれる中、就学前や低学年の子を持つ保護者に体験活動の重要性を知っていただく必要があります。</p> <p>身近な地域で気軽に自然体験ができる機会が減少しています。</p> <p>インターネット・スマホの適正利用については、学校、保護者、地域の連携を進めること、また健康こども未来部との情報交換が求められています。</p> <p>若者の地域での居場所が課題となっています。</p>
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見	<p>①GIGAスクール構想に基づき、児童生徒に1人1台のタブレットの整備が早急に求められていることから、それに伴う児童生徒への情報リテラシー教育の充実が急務であると考えます。</p> <p>②インターネット、スマホの適正利用について、子どもの見本となる保護者や地域を巻き込んだ啓発活動となることを期待します。</p>
意見に対する考え方	<p>①児童生徒の情報リテラシー教育の充実については、児童生徒が楽しみながら取り組むことができるグッズ（城南公民館作成「城南ネットわいわいカルタ」等）を紹介したり、教職員の意見を踏まえながら学校教育課と生涯学習・文化財課が協力して児童生徒向けの啓発教材の作成を進めていきます。</p> <p>②インターネット、スマホの適正利用については、市内の地域、学校、家庭で行われている「ルールづくり」や「メディア・コントロール・デー」等の取り組み事例を掘り起こし、発表する機会を設けるなどして、地域、学校、家庭で「良い事例」を共有し、行動のきっかけ作りを進めていきます。</p>
今後の方針等	<p>就学前や低学年の子を持つ親子向けの自然体験プログラムを実施し、体験活動の重要性を学ぶ機会を作っていきます。</p> <p>自治会単位の育成会が自然体験に取り組むことができるように支援を進めていきます。</p> <p>インターネット・スマホの適正利用については、学校、保護者、地域の学習会を一層進め、連携の意識醸成を行い、健康こども未来部との情報交換を進めます。</p> <p>地域における若者の居場所づくりについて、調査・研究を進めます。</p>

令和元年度 事業評価シート

4-④

事業名	公民館事業の充実	担当課	中央公民館 生涯学習・文化財課
当初目標	(1)人生100年時代に向けたシニア世代の学びの拡充 各館の高齢者向け講座の充実 (2)地域の資源（自然、歴史、人等）を生かした子どもたちの自然体験・社会体験の機会の提供と充実、各館の事業充実（館長会での情報交換） (3)公民館事業の情報発信の拡充 各公民館だよりとホームページの充実のための研修2回（主事会）及びSNSによる情報発信を1館以上で実施		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「ことぶき大学」に代表される各公民館における高齢者向け講座の内容充実	1,696	
	夏休みの子ども達の居場所づくりを図りながら、子どもを対象とした自然・社会体験の機会を提供するため、講座・イベントを開催	3,047	
	山本県が提唱した「児童自由画教育運動」の100周年にあわせて、市立美術館と連携し、児童自由画の展示（12/5～12/25）や、「山本県」の講演会を開催（11/10）	8	
	職員を対象としたHP・公民館だよりの作成研修会（10月、1月の2回）	0	
	フェイスブックによる公民館情報の発信強化（中央、西部、塩田、真田、武石の5館）	0	
目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「ことぶき大学」を初めとした高齢者向けの講座の中に、信州上田学を取り上げ、郷土愛の醸成を図ったほか、単なる座学のみとせず、自らが体験しながら学ぶ機会や、コミュニケーションを高めるための学習の場を設けました。 ・「夏休みわいわい塾」に代表される、自然・社会体験を行う、子ども向け講座を、各公民館において、内容に創意工夫をこらして実施しました。また、児童自由画教育運動100周年にあわせて、児童自由画展（来場者：約500人程度）や「山本県」の講演会（来場者：112人）を開催しました。 ・情報発信の強化を図るため、職員を対象とした、「公民館だより」、「HP」の研修会を各1回開催したほか、先行した2つの公民館に加え、新たに3つの公民館において、フェイスブックを活用した公民館情報の発信を始めました。 		
総合評価		B	
今後の課題等	高齢者に限らず、全ての世代による学びは、常に継続していくものであるため、市民の学びにつながる講座やイベントのテーマ・内容に工夫を凝らし、質を高めていきます。さらに、市民に向け、効果的な情報発信を行うよう、研究を進めていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	9つある公民館の活動の充実だけでなく、地域に根差し、子どもからお年寄りまで住民同士のつながりを生み出す各分館の活動を支援するという視点も大切であると考えます。	
	意見に対する考え方	各公民館では、毎年、分館役員を対象として分館活動の進め方についての説明会を開催するとともに、「分館活動の手引き」の作成・配布を行い、初任者の方であっても、分館活動がスムーズに進められるよう配慮しています。加えて、全ての分館役員を対象とした研修会を開催しており、分館活動を行う上で参考となる、先進的な事例の紹介等について、講師や実践者からお聞きできる機会を設けています。 各分館から活動の支援に対する要望、相談等が公民館に寄せられた際は、引き続き個別に対応するとともに、状況に応じて各分館へ出向いて対応を行います。地域コミュニティの活性化を担う分館のご意見をお聞きしながら、分館が活動しやすい環境づくりに努めていきます。	
今後の方針等	(1)あらゆる世代の市民が公民館を安心して利用できるよう、広報の充実や環境整備に取り組んでいきます。 (2)より良い学びの場を提供し、公民館事業の充実を図るため、各公民館同士の連携を進めると共に、図書館、博物館、美術館などの社会教育施設と連携を図り、共同で事業を進めていくことが必要とされています。また、地域住民や地域コミュニティの各種団体等とも積極的な連携を進めていきます。		

令和元年度 事業評価シート

4-⑤

事業名	図書館サービスの充実	担当課	上田図書館 生涯学習・文化財課
------------	------------	------------	--------------------

当初目標	<p>「上田市子ども読書活動推進計画」の見直しを進め、推進体制の構築を図ります。 利用者のニーズに応えるため、職員の資質向上に努めます。 貴重資料の整理を行い、市民の利活用を促進します。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1) 子ども読書活動推進計画の策定に係る現状把握		0
	(2) 各種研修会への積極的な参加		29
	(3) 貴重資料の整理		1, 773
目標の達成状況	<p>(1) 当初計画では、新たな推進計画の素案を、図書館協議会に諮問する予定でしたが、作業の遅れにより、今年度は市内4図書館の現状と課題の検証を行いました。このことから総合評価はCとしました。 (2) 県立図書館・文化庁等の主催による研修会に参加し、スキルアップを図りました。 (3) 各館所蔵の未整理資料の目録作成や、資料登録などの整理に努めました。</p>		

総合評価	C
-------------	----------

今後の課題等	<p>(1) 新たな推進計画の素案を作成し、令和2年度内に協議会に諮問できるよう関係機関と連携を図り進める必要があります。 (2) 図書館基本構想に基づく上田図書館の施設整備や、中央図書館化と地域図書館の役割等について検討する必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>① 各館所蔵の貴重資料の整理を進めていることを評価します。施設整備を進める上では、多くの利用者が長時間利用することを想定しさまざまな機能を持たせた滞在型の図書館や、一次資料の収集、閲覧に力を入れた図書館など、各図書館の役割を検討する必要があると考えます。 ② 子どもの読書活動の推進では、民間の書店のノウハウや他市の取組の研究から、子どもの図書館の利用増につながることを期待します。 ③ さまざまな市民のニーズに応えるため研修会へ積極的に参加し、職員の資質、専門性の向上に努めていることを評価します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>① 図書館にはさまざまなサービスがありますが、市内の各図書館がどのような機能を持ち、効果的、効率的な図書館業務を展開していくのかということは重要な課題であり、図書館サービスの向上につながるよう研究していきます。 ② 子どもたちがさまざまな場所や機会に、自主的に読書活動ができる環境整備を図るため、多角的な検討を行い、「上田市子ども読書活動推進計画」を策定していきます。 ③ 今後も利用者のニーズに応え適切なサービスを提供するため、職員の資質向上と図書館の専門性の維持に努めていきます。</p>	
今後の方針等	<p>(1) 「上田市子ども読書活動推進計画」の見直しにあたっては、国が定めた「第4次基本計画」を基本とした新たな推進計画の策定を早急に行い、図書館協議会に諮問し協議していきます。 (2) 施設整備については、令和2年度中に個別計画の策定を目指すこととされているため、施設の複合化等も含め検討していきます。</p>		

令和元年度 事業評価シート

5-①

事業名	(仮)第2次上田市スポーツ振興計画の検討	担当課	スポーツ推進課
-----	----------------------	-----	---------

当初目標	市のスポーツ振興の理念と目標等を定めた「上田市スポーツ振興計画」が、令和2年度で計画期間が終了することから、令和3年度を始期とする次期計画の策定に取り組みます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 計画検討に当たっての審議会委員の委嘱と諮問	0	
	(2) 審議会会議開催【5回】、勉強会（会議内）開催【2回】	200	
目標の達成状況	<p>計画検討に当たりスポーツ推進審議会委員（10名、任期2年）を委嘱し諮問を行いました。</p> <p>5回の会議（計画名称「第二次上田市スポーツ推進計画」の決定、計画概要やスポーツに関する市民アンケートの検討）と会議内で2回の勉強会（第2期スポーツ基本計画、障がい者スポーツについて）をそれぞれ開催し、審議会内の情報共有・意見交換・知識向上を図りました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	引き続きスポーツ推進審議会での検討をいただくほか、市民や関係団体の意見、また平成30年に策定した「上田市スポーツ施設整備計画」や令和9年開催の長野国体を踏まえた計画を策定する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	市民の体力向上や健康づくりの機会拡大とともに、スポーツ環境の整備を促進し、生涯スポーツ社会の実現を目指した「スポーツ推進計画」の策定に向け、審議会により内容の検討を進めていることを評価します。	
	意見に対する考え方	スポーツ基本法で定める県の地方スポーツ推進計画においても「第2次長野県スポーツ推進計画」と、「推進計画」という名称を用いていることから、上田市における次期計画についても「第二次上田市スポーツ推進計画」とし、引き続きスポーツ推進審議会での検討をいただくほか、市民や関係団体の意見、「上田市スポーツ施設整備計画」や令和9年開催の長野国体を踏まえた計画の策定に取り組んでいきます。	
今後の方針等	審議会会議（5回）のほか、スポーツに関する市民アンケート調査やパブリックコメント、また関係団体からの意見聴取を行い、「上田市スポーツ施設整備計画」の内容や長野国体に向けた施設整備の進捗を踏まえた計画検討を進め、令和2年度内の策定を目指します。		

令和元年度 事業評価シート

5-②

事業名	スポーツ施設整備の推進	担当課	スポーツ推進課
-----	-------------	-----	---------

当初目標	(1)教育施設整備室（新設）との連携による施設整備計画に基づいた施設整備の取組（新テニスコート、自然運動公園総合体育館等） (2)施設修繕計画（管理事務所別）の検討とこれに基づく計画的修繕		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	自然運動公園総合体育館の設計を実施		9,438
	スポーツ推進審議会へ新テニスコート整備の諮問・答申、基本構想策定		495
	新テニスコート建設予定地の測量		5,621
	管理事務所ごとに修繕計画を作成		0
目標の達成状況	教育施設整備室との連携のもと、自然運動公園総合体育館の耐震化・大規模改修に向けた実施設計を行いました。 令和9年の長野国体に向けた新テニスコートの整備に関しては、都市建設部都市計画課と連携して、運動公園としての位置付けの検討を進めるとともに、スポーツ推進審議会に諮問し、答申の内容を尊重し整備基本構想を策定しました。 また、管理事務所ごとに修繕計画を作成し、計画に基づいた修繕を進めています。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	「上田市スポーツ振興計画」、「上田市スポーツ施設整備基本構想・整備計画」、個別施設の構想等のほか、令和9年の長野国体開催を踏まえ、財源の確保に努めながら施設整備を進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	市の各種計画に基づき、着実にスポーツ環境の整備を進めていることを評価します。整備を進めるに当たっては、適正に事業費を管理していく視点が大切だと考えます。	
	意見に対する考え方	引き続き、上田市スポーツ施設整備計画に基づき、施設整備等を進めていきます。	
今後の方針等	上記各計画の内容を踏まえつつ、自然運動公園総合体育館の耐震化・大規模改修工事に本格着手するとともに、新テニスコートの整備に向け、財源確保の具体化を図るべく費用対効果の調査を実施します。		

令和元年度 事業評価シート

5-③

事業名	生涯スポーツ振興、競技力向上、人材育成とスポーツを支える地域づくり	担当課	スポーツ推進課
------------	-----------------------------------	------------	---------

当初目標	「上田市スポーツ振興計画」に基づく体力向上・健康づくり・スポーツ観戦の機会拡大のほか、競技力の向上を通じた生涯スポーツ社会の実現を目指した事業を展開します。	
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)
	(1)体力向上を図る各種大会【19回】	12,691
	夢を持つ事の大切さを伝える事業【小学校10校】	2,148
	「みる」スポーツの機会充実（Vリーグ開催支援）【随時】	0
	(2)ラグビーの市内定着を図る体験会・指導講習【計34回】	0
	(3)総合型地域SCの育成を促進する連携事業【13回】	0
(4)競技力向上を図る全国大会等出場奨励金の交付【36件】	1,070	
目標の達成状況	<p>体力向上を図る各種大会は、陸上・水泳記録会など19回開催し概ね目標を達成しました。夢を持つ事の大切さを伝える事業（夢の教室）は目標の10小学校で開催し、「みる」スポーツの機会充実としてVリーグの開催支援（広報面・会場利用支援）も予定どおり行いました。</p> <p>ラグビーの市内定着を図る体験会・指導者講習は計34回、総合型地域SCの育成を促進する連携事業は13回と、それぞれ好評を受け目標を上回る回数で実施しました。競技力向上を図る全国大会等出場奨励金も36件交付し、目標を達成しています。</p> <p>一方、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症の発生を受け、参加者等の安全確保のため一部の事業を中止しました。</p>	

総合評価	B
今後の課題等	<p>引き続き市民の体力・健康づくりや「みる」スポーツの機会確保、競技力向上を図る事業を通して市のスポーツ振興を進めます。</p> <p>令和元年度は台風や新型コロナウイルス感染症の影響により一部の大会を中止したことから、今後も災害時の対応を検討する必要があります。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①体力向上を図る各種大会の開催や全国大会等出場奨励金の交付など、それぞれのレベルに応じてスポーツに取り組む市民を支援し、生涯スポーツ振興を推進していることを評価します。</p> <p>②ラグビーの市内定着に向けた体験会やVリーグの開催支援など、スポーツを支える地域づくりに向けた取組を評価します。スポーツを支える地域づくりに当たっては、行政と市民の協働によりさまざまな取組が展開されることを期待します。</p> <p>意見に対する考え方</p> <p>①引き続き様々な媒体を活用してスポーツ関連の情報提供に努めるとともに、関係機関と連携し「生涯スポーツ社会」の実現に向けた事業を推進します。</p> <p>②自らが体を動かす「する」スポーツだけでなく、観戦などの「みる」スポーツや、情報提供、スポーツ指導やボランティア活動などスポーツを「ささえる」ことも大切なスポーツ活動であることから、市民一人ひとりがそれぞれのライフステージに合ったスポーツに親しむことで、地域や社会とつながり、健康で豊かな市民生活が送れるよう、今後もスポーツ施策を推進していきます。</p>
今後の方針等	<p>各種事業の実施とともに、災害時の大会事務局の連絡体制を再確認し、より速やかな意思決定と対応に努めます。</p>